

# 庄原市行政評価シート

令和 **元** 年度評価

事務事業名		庄原市ふるさと応援団事業			
実施期間	平成	27 年度 ~ 平成	年度	(終期の設定のない場合は、終期を空白)	所管課 企画振興部観光振興課

予算科目	会計	01 一般会計	款	07 商工費	項	01 商工費
	目	03 観光交流費	事業	42-01 観光交流事業		

対象者	本市以外に在住し、本市を応援する意思を持つ個人、団体、企業	対象者数など	団員数:93
根拠法令・計画等	庄原市ふるさと応援団設置要綱		
HPアドレス	<a href="https://www.shobara-ouendan.jp">https://www.shobara-ouendan.jp</a>		

実施目的	本市の発展を応援する輪を全国に広げ、交流・連携を通じてにぎわいと活力あるまちづくりを推進する。
事務事業の概要	<p>○団員向け会報誌の発行 ・年3回程度</p> <p>○市内協賛店での優待及び割引等 ・10店舗でサービス提供</p> <p>【平成30年度】 ・ふるさと応援団員の拡大を図るため、国の地方創生推進交付金を活用し、ホームページの開設やパンフレットの作成等を行い、認知度向上を図った。 ・これまで、毎年団員の更新をしていたが、平成30年度末から更新手続きを簡易にし、脱退の意思がある方のみ削除する方法に切り替えた。また、ホームページからも団員参加申請を受け付ける仕組みに変えた。</p>

年度別実績概要	
平成	
28 年度	応援団員:83人
平成	
29 年度	応援団員:79人
平成	
30 年度	応援団員:93人

## 実績指標

(単位:千円)

事業費 (インプット)	項目	内容	H 28	H 29	H 30	合計
	事業費	役務費	会報誌等郵送代	300	225	225
	委託料	会報誌等作成業務	324	221	258	803
	委託料	ホームページ作成等	0	0	1,156	1,156
		事業費計	624	446	1,639	2,709
財源	国県補助金				578	578
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		624	446	1,061	2,131

実績 (アウトプット)	指標名称	単位	基準値	H 28	H 29	H 30	合計
	1	応援団員数	人		83	79	93
2							0
3							0
成果 (アウトカム)	1	ふるさと応援寄附金	件	262	611	1,093	1,966
	2	ふるさと応援寄附金	円	12,957,000	18,783,000	30,146,311	61,886,311
	3						0
備考							

事務事業名	庄原市ふるさと応援団事業	所管課	企画振興部観光振興課
-------	--------------	-----	------------

評価項目		所管課評価	市民意見	評価委員会	評価分布			
分布は、A+1,B:0,C-1で総回答数で割り、小数点以下四捨五入。ただし、A-C又はC-AがBより多い場合はA',C'に補正する					市民意見		評価委員会	
<b>優先度</b>		B	B'	B	分布	平均	分布	平均
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。				2		2	
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。				1		4	
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。				1	0	1	0
<b>認知度</b>		C	B'	C	分布	平均	分布	平均
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。				2		0	
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。				2		3	
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。				0	1	4	-1
<b>有効性</b>		B	B'	B	分布	平均	分布	平均
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。				1		2	
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。				1		4	
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。				2	0	1	0
<b>受益者満足度</b>		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。				0		1	
B	どちらともいえない。				3		5	
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか。)				0	0	1	0
<b>市民(納税者)納得度</b>		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。				0		2	
B	どちらともいえない。				1		5	
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。				0	0	0	0
<b>代替性</b>		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。				1		2	
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。				2		5	
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。				1	0	0	0
<b>まちづくり基本条例適合性</b>		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。				0		1	
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。				3		6	
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。				1	0	0	0
<b>所管課評価</b>		<b>拡充して実施</b>						
評価視点	ふるさと応援団員数が伸び悩んでおり、現時点で成果が見えにくい、本市の人口減少が進む中で、関係人口を拡大することが地域活性化につながると考えており、事業の拡充について意見を求めます。							
所管課が課題と考える内容	ふるさと納税や、特産品等の販売促進、定住促進などと連携した効果的・効率的な事業運営と応援団員数の拡大。							

市民意見(プラモニ)		※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。)				
意見数分布	現行どおり	拡 充	縮 小	終 了	その他の見直し	総回答数
	3	0	0	0	1	4
主な 意見	<p>【現行どおり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民自身が庄原市に対してもっと関心を持たなければならないことを痛感します。</li> <li>・直面する人口減少問題解決の一助となるよう、地域活性化に向け、精力的に取り組んでいただきたい事業である。</li> <li>他の地方公共団体等の事例を参考にいただきながら庄原市の魅力ある情報発信を主体に応援団員増を期待している。</li> </ul> <p>【その他の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市が直轄するのではなく、民間事業者へ委託して、最小の経費で最大の効果が出るように工夫をすべき。</li> <li>・ふるさと応援団員がふるさと納税をしているのか、ふるさと納税をしたから応援団員なのか、よくわからない。本来の趣旨からすると、寄付や定住にかかわらず、庄原市出身者や親族が庄原出身、観光で庄原が好きになった人などが、庄原を応援するために団員になるということになる。となると、交流人口の拡大、応援団員の獲得のため、市だけの情報を必要としているのではなく、各地域の町の状況やイベント、店舗や空き家、カーブ、新商品、特産品など多岐にわたる庄原の情報も必要かと思う。民間に委託して、「みはらせ」などのように読み応え見ごたえのある冊子や、旬な情報を団員に提供するとともに、交流人口拡大についても、民間のノウハウで提案してもらった方がよいかもれない。そうしたものをすべて委託料として予算を一括提案したほうが、市の職員が直轄でするより効率的、効果的ではないだろうか。</li> </ul>					

<b>行政評価委員会評価 拡充して実施</b>	※行政評価委員会の摘録(会議内容)は、ホームページに掲載しています。
-------------------------	------------------------------------

**総括意見**

庄原を応援したいと感じている市外在住者の掘り起こしや関わりづくりによる交流人口の増加、及び更なる交流や展開に繋げていく意図により継続されており、庄原市にとって有益な事業である。  
 しかしながら、実施事業の方向性が明確でなく、取り組みが弱いと感じる。庄原市ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)等、他部署と横の連携を密にし、次の点等、内容を再考されたい。  
 ①近年、手続きの簡便化を図られているが、更なる見直しを進められたい。  
 ②応援団登録に対する魅力づくり。(支所エリアに1店舗以上の協賛店、住民の活き活きとした暮らしの情報発信等)  
 ③達成目標・ターゲットの明確化。

▲ ※委員会における最終的な評価として総括したものであり、最も分布の多い評価を優先するものではありません。

評価分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し
	2	4			1

**各委員の意見**

**【現行どおり】**

①要綱第4条では定住・企業誘致に係る情報の提供、特産品等の販売促進などが挙げられているが、効果が見えにくい。また、ふるさと納税などへのかかわりも少ないように思う。今後効果的な方針も決まっていないうので、当面現状維持が妥当と思う。

④目標会員数に対して実績値が低い状況にある。応援団へ登録する事に対して魅力がないのではないか。実施内容を再度検討すべきと考える。

**【拡充】**

②本市においては合併後も急速に人口減少が進んでおり、その対策は喫緊の課題となっている。そうした中で、本事業のように市外との関係人口を拡大することは、将来のU・Iターンや市の財源につながることもあり、機会あるごとにPRに努め、全庁的な取り組みとして、今後ますます拡大する必要があると思われる。

③拡充に向けての応援団設置要綱を見直す必要があると思う。(例:団員有効期間、更新期間等)  
 ふるさと納税=応援団員  
 応援団協賛店舗数が少ない。最低でも支所エリアに1件は欲しい。

⑤事業の目的、及びその事業の効果については、庄原市にとって非常に有益と考えます。  
 ただ、経年の団員数の伸び悩みを解決することが、この事業の成否を決すると思います。  
 そのために、次の点を提案します。  
 (1)団員獲得目標を明確にする(例:5年後 1,000人)  
 (2)年度別の達成目標を決める  
 (3)団員に加入していただけるターゲットを明確にする。

⑦昨年度に事業の手直しを行い、ネットでの登録ができるようになったこともあり、もう2~3年は様子を見る必要がある。進学・就職を機に市外へ出たときに庄原市のPRをしてもらうために、小中学校で庄原市の歴史・文化についてもっと知ってもらう努力がいるのではないかと。

**【その他の見直し】**

⑥庄原市出身で現在は市外に在住、配偶者が庄原出身で縁ができた、仕事で庄原(県北)に縁があり良い印象を持っている…など、庄原を応援したいと感じている市外在住者は少なくないと思う。この事業は、そうした人たちを実際に掘り起こし、関わりを作っていく、更なる交流や展開に繋げていきたいという意図の元に継続されていることはよく分かるし、重要で効果的だと思う。しかし一方では、市外在住者に税金で何かを「厚遇」するのは難しいし、短期で結果が見えやすいわけでもないため、結果的にはっきりしない事業になってしまっているのではないかと。私は、今の庄原市に大切なのは、住民が「ここで楽しく・生き生きと・幸せに」暮らすことだと思っている。後は、それを発信していくだけで魅力を感じる人は感じて、勝手に「応援団」になってくれる。今の庄原の問題点は、「どうせ無駄だ」という無気力、若い人たちのやる気を削ぐような保守性(保守性自体を否定するものではありません…どちらかというと「既得権益性」?)で、これが解決すれば、「応援団」を組織しようと努力しなくても「次」が展開してくるし、それができないのなら、中途半端に組織しようと努力しても、実りは少ないのではないかと。まずは行政の中から、危機感と創造性をもっともっと感じられることを期待します！

<b>今後の事業実施の方向性 拡充して実施</b>	
---------------------------	--

**詳細**

- ・ 応援団員の登録目標を150名とし、各種同窓会などにターゲットを定めてプロモーションを図る。
- ・ 応援団員の特典となる協賛店の登録を増やすよう、営業活動に取り組む。
- ・ 各課との連携を深めるとともに、紙ベースでの会報誌を止め、ホームページを活用したタイムリーな情報発信に努める。

**備考**

当初予算額  
 令和2年度：212千円  
 令和元年度：619千円